



岐阜女子大学
デジタルアーカイブ研究所

【報告会】

文部科学省委託事業

令和4年度 幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業
現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

報告会

インストラクショナルデザイン と学習環境

久世 均（岐阜女子大学）

□ インストラクショナルデザイン指導力

■ 幼児教育コーディネータ

「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域、学校園における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とする。

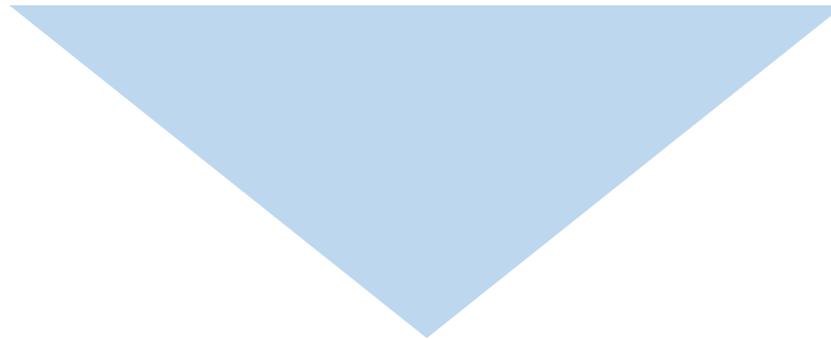
■ 小中連携教育コーディネータ

義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより、小中連携教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ること」を目的としている。



新たな教師の学びの姿の実現のための インストラクショナルデザイン

子どもたちの学び(授業観・学習観)とともに教師自身の学び(研修観)を転換し、「新たな教師の学びの姿」(個別最適な学び・協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」)を実現



インストラクショナルデザイン
を考えてみましょう！



インストラクショナルデザインとは

インストラクショナルデザイン

インストラクション
Instruction

デザイン
Design

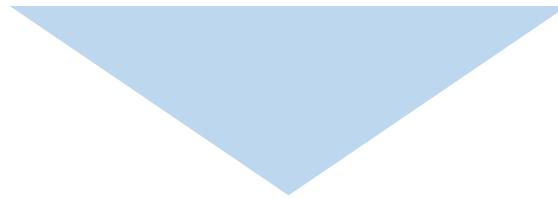
教授、授業、指示
行動を引き出すため
の仕掛け

設 計



インストラクショナルデザインとは

インストラクショナルデザイン (ID : Instructional Design)



教育活動の**効果的・効率的・魅力的**な学習環境をデザインしていくための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して学習支援環境を実現するプロセスのこと

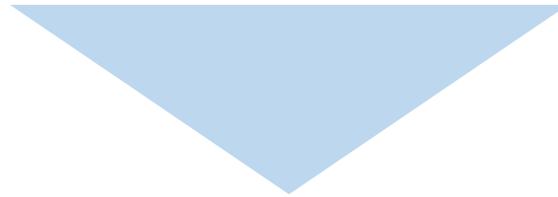
鈴木克明 (2005) 「E-Learning実践のためのインストラクショナル・デザイン」 『日本教育工学会誌』



岐阜女子大学
デジタルアーカイブ研究所

「インストラクショナルデザイン」

効果的・効率的・魅力的とは



- **効果的** : 学習者が目標に到達する
- **効率的** : 短時間で学習目標に到達する
- **魅力的** : もっと学びたいという気持ちに

学習目標・評価方法・教授手法の明確化が 講座設計のスタート

• 学習目標

- 学習者に何ができるようにしてほしいのか

• 評価方法

- どのような状態になればその目標を達成したとするか

• 教授手法

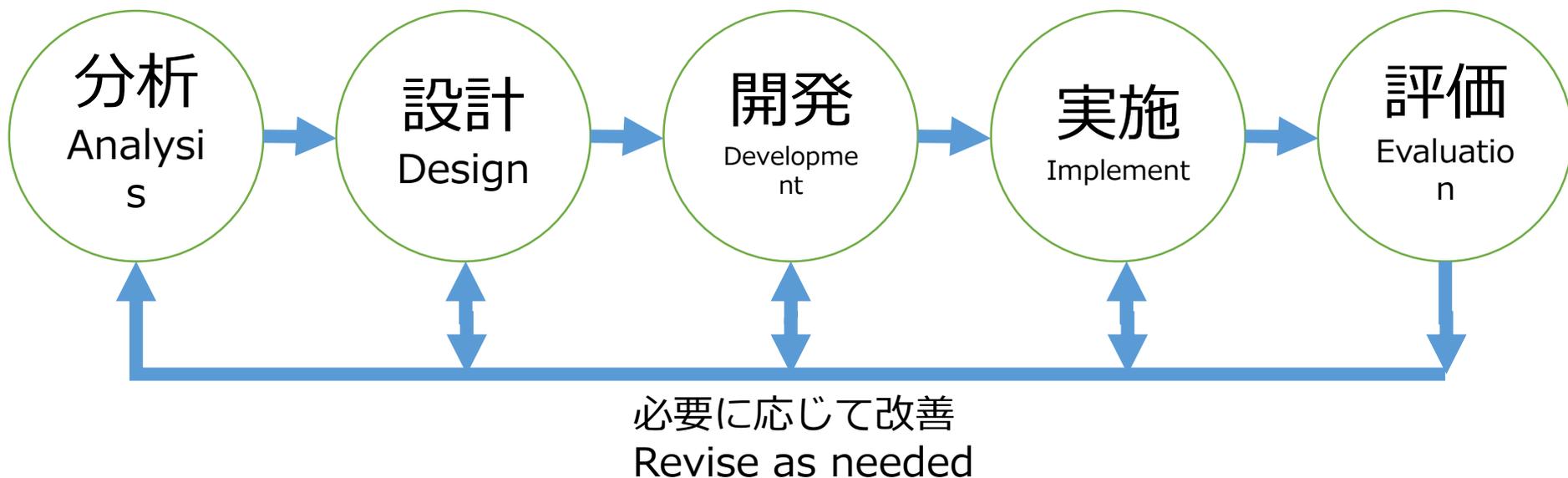
- 目標を達成するためにはどのような方法がよいか

ADDIE

授業デザインを進めるプロセス

ADDIEモデル

- 基本的なIDプロセス



ADDIE

ADDIEの各プロセス

Analyze (分析)	学習者の特性、教育内容を分析
Design (設計)	目標設定、教授手法決定
Development (開発)	講座を設計する
Implement (実施)	実際に教授を行う
Evaluation (評価)	講座が目標を達成するのに役立ったかどうか評価

幼児教育コーディネータに求められる資質能力の構造化

幼児教育コーディネータに必要な資質能力

○人と人、組織と組織をつなぐコーディネート能力

○人々の納得を引き出すプレゼンテーション能力

○人々の力を引き出し、主体的な参画を促すファシリテーション能力

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【幼稚園等】
【資質充実期】並びに【資質貢献期】

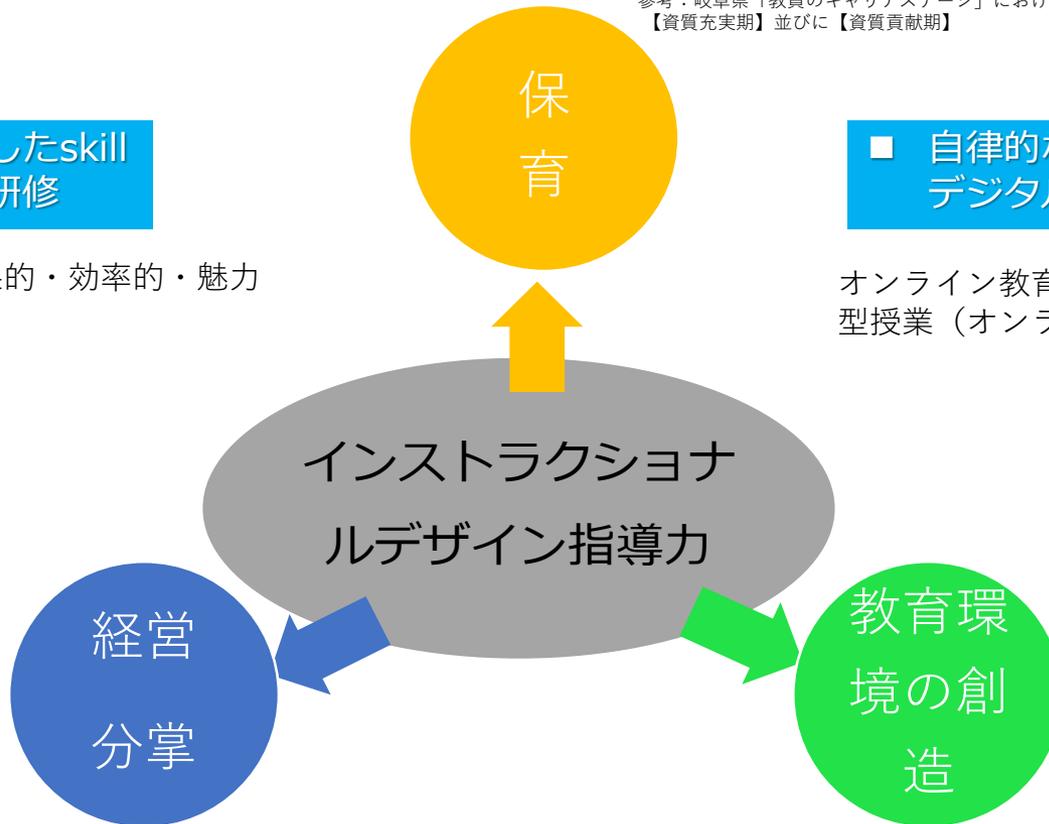
■ デジタル変革に対応したskill upからSkill change研修

オンライン教育における効果的・効率的・魅力的な教育プログラム

■ 自律的なオンライン研修とデジタル変革への意識改革

オンライン教育での実践的な課題解決型授業（オンラインワークショップ）

■ 知識・技能から資質能力への転換



■ 保幼小連携手法の確立

学習成果のエビデンスに基づく教育実践を幼児教育に普及できる指導力



幼児教育コーディネータの資質・能力の構造化

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【幼稚園等】における【資質充実期】並びに【資質貢献期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)	
保 育	保育構想	(1)自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 (2)幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (3)各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (4)自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 (5)自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 (6)他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。	
	保育実践		
評価改善			
教育環境の創造	幼児理解	(1)様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2)継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3)関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4)幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5)幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (6)幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。	
	生活の展開		
	発達の課題		
経 営 分 掌	学級・学年・園経営		(1)自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 (2)自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 (3)他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 (4)広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (5)関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 (6)自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
	連携・協働		
	危機管理		
特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		(1)全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 (2)幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。	
ICTや情報・教育データの利活用		(1)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (2)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。	
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。	
	研修成果の評価		
	ワークショップ		
教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。		



③ 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発

目的

「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域、学校園における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とする。

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するもの。

【履修証明プログラム】

本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するもの。

コース名	幼児教育コーディネータ養成コース (第1期～第3期(100名定員/期))
趣旨・内容	本課程は、「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の立案実践能力、組織化、及び地域課題解決への具体的対応力を身に付けることにより、地域・学校園における幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とします。
対象者	次の(1)～(3)に該当する方とします。 (1) 幼稚園教諭2種免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、幼稚園(特別支援学校の幼稚部及び幼保連携型認定こども園を含む)における教員として 在職年数が、12年以上の方。(((1)に該当する方につきましては、2種免許状を1種免許状に上進可能) (2) 幼稚園教諭1種免許状所持者でスキルアップを目指す方。 (3) 幼稚園教諭としてお勤めで、管理職・マネジメントの職務についている方。
総時間数	7科目 77時間(履修証明プログラムは60時間以上)
コース修了条件	各講習における試験またはレポートによる最終試験を全て合格すること。
出願書類	1. 履修証明プログラム受講申請書 2. 写真 2枚

1. 本プログラム修了者は、本学の単位としても認定する。

2. 履修証明プログラム履修生への「通学証明書」「学割証」「成績証明書」等は発行しない。



幼児教育コーディネータの開設科目

科目区分	科目名	授業形態	時間数	講義内容(案)
領域及び保育内容の指導法に関する科目	遊びと文化Ⅰ	講義	8	幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い、動くおもちゃを作る。その過程を通して、幼児に身に付けさせる力を考え、それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め、幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。
	遊びと文化Ⅱ	講義	8	
	保育内容（表現）	講義・演習	15	子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。
教育の基礎的理解に関する科目	教師論	講義	15	教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法・技術	講義・演習	15	教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模擬的に実践する。さらには、特に小学校教育以降において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模擬的実践を行う。
	幼児理解	講義	8	幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。
	教育相談Ⅰ	講義	8	



幼児教育コーディネータの資質・能力の教科毎の構造化

科目名	講義内容	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
遊びと文化 I 遊びと文化 II	<p>幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い、動くおもちゃを作る。その過程を通して、幼児に身に付けさせる力を考え、それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め、幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。</p>	<p>(1)「自から知識を構成する」学習観である構成主義の学びと創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング)教育について事例を挙げて説明できる。 (2)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。 (3)インストラクショナルデザインを生かした教材を設計できる。 (4)様々な教育リソースを活用した研修講座を設計できる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。</p>
保育内容(表現)	<p>子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。</p>	<p>(1)「自から知識を構成する」学習観である構成主義の学びと創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング)教育について事例を挙げて説明できる。 (2)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育リソースの活用について事例を挙げて説明できる。 (3)インストラクショナルデザインを生かした教材を設計できる。 (4)様々な教育リソースを活用した研修講座を設計できる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。</p>
教師論	<p>教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。</p>	<p>(1)自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 (2)幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (3)各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (4)自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 (5)自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 (6)他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。 (7)自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 (8)自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 (9)他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 (10)広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (11)関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 (12)自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。</p>
教育の方法・技術	<p>教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模擬的に実践する。さらには、特に幼児教育において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模擬的实践を行う。</p>	<p>(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。 (7)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (8)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。</p>
幼児理解 教育相談 I	<p>幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。</p>	<p>(1)様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2)継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3)関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4)幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5)幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となつて実践することができる。 (6)幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。 (7)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (8)全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 (9)幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。</p>

幼児教育コーディネータの学習目標の分析

科目名	一般目標	行動目標（行動で目標を示す）	評価条件（評価の条件を示す）	合格基準（合格基準を示す）
遊びと文化Ⅰ 遊びと文化Ⅱ	<p>幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い、動く紙おもちゃを作る。その過程を通して、幼児に身に付けさせる力を考え、それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め、幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動く紙おもちゃの指導案を作成することができる。 2. 動く紙おもちゃを動画を使って指導することができる。 3. 動く紙おもちゃの指導法により他の紙おもちゃの指導に応用することができる。 4. 動く紙おもちゃによる子どもの発言を分析して、指導方法と分析結果の評価ができる。 5. 動く紙おもちゃに指導によりどのような学びが発生したかを分析・評価できる。 6. 動く紙おもちゃを新しく創造し、指導できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動く紙おもちゃ指導の動画をデジタルアーカイブする。 2. 児童の観察をビデオで記録する機器の準備。 3. ビデオで記録した児童の行動を様々な方法で分析評価で切るための準備。 4. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動く紙おもちゃの指導案を作成。 2. 子どもの発言の分析 3. 子どもの学びを分析・評価 4. 新しい教材の開発と指導案の作成 <p>上記の4課題の内3つ以上完成すれば合格</p>
保育内容（表現）	<p>子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。</p>			
教師論	<p>教師は、学習者とその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。</p>			
教育の方法・技術	<p>教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模擬的に実践する。さらには、特に幼児教育において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模擬的実践を行う。</p>			
幼児理解 教育相談Ⅰ	<p>幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。</p>			

本学のカリキュラムメソッド

＜令和3年度 幼稚園教諭2種免許状保有者のための一種免許状上進公開講座＞
（幼稚園教諭の人材確保・キャリアアップ支援事業（文科省委託））

○特 色：・土日祝の対面とe-Learningと実践課題への取り組み（ハイブリット方式）

令和4年度 幼児教育の人材確保・キャリアアップ支援事業（文科省委託）
「幼児教育コーディネータ養成講座」

○特 色：・テキストとe-Learningへの取り組みよる講座実施
・対面（旧来の方法）とオンデマンドの組み合わせでの講義を実施
・本学履修証明プログラムでの実施（受講科目はパッケージ化（固定））



カリキュラムメソッド

【本学の **カリキュラムメソッド**】

令和3年度 幼稚園教諭の人材確保・キャリアアップ支援事業（文科省委託）

○特色：・土日祝の対面とe-Learningと実践課題への取り組み（ハイブリット方式）

学ぶ方法の開発

令和4年度 幼児教育の人材確保・キャリアアップ支援事業（文科省委託）
「幼児教育コーディネータ養成講座」

○特色：・テキストとe-Learningへの取り組みによる講座実施

⇒・カリキュラムの構造化・テキストの開発

・資質能力の構造化，タキソノミーテーブル開発

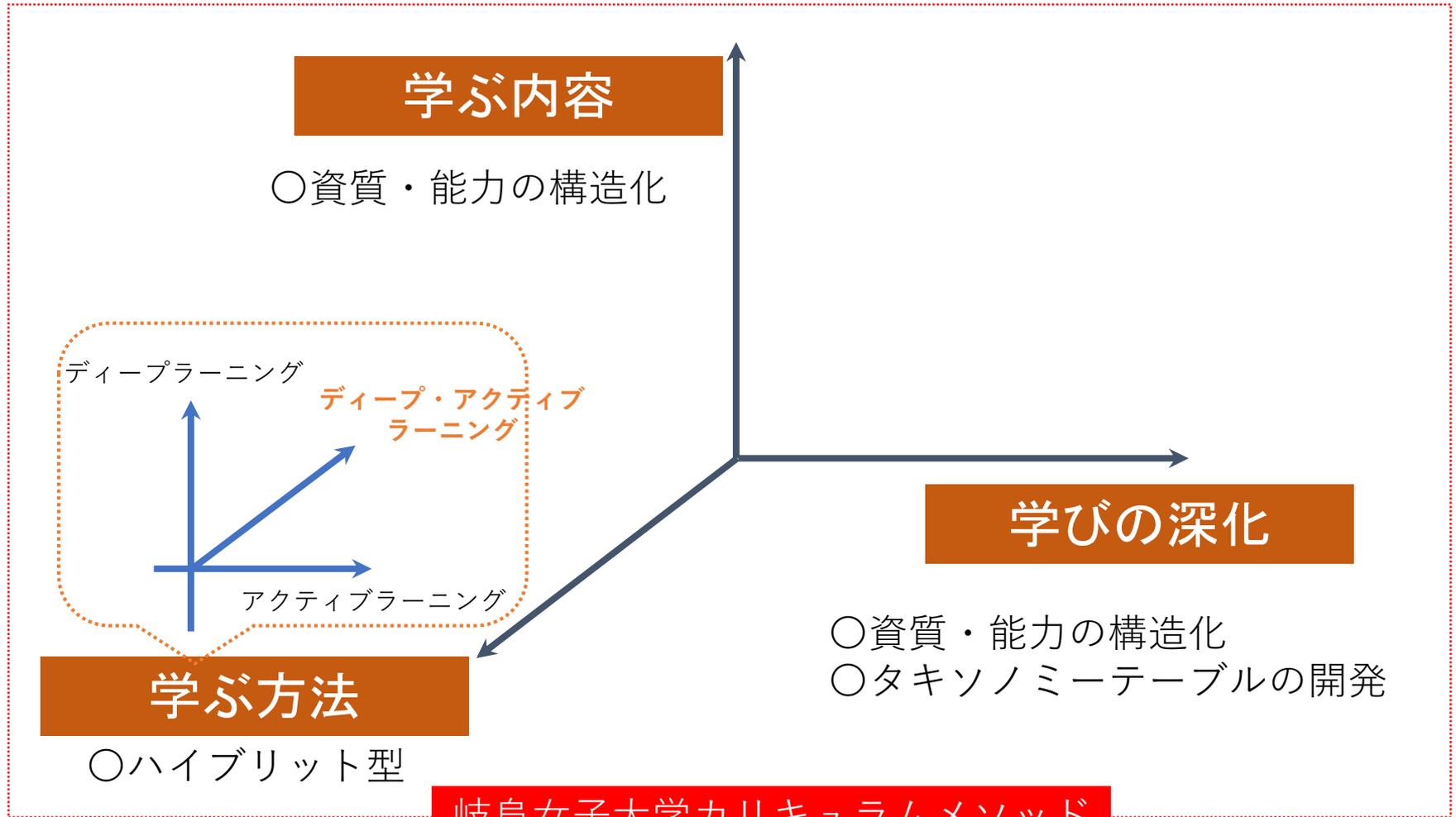
学ぶ内容の開発

学びの深化への寄与

○特色：・対面（旧来の方法）とオンデマンドの組み合わせでの講義を実施

学ぶ方法の開発

カリキュラムメソッド

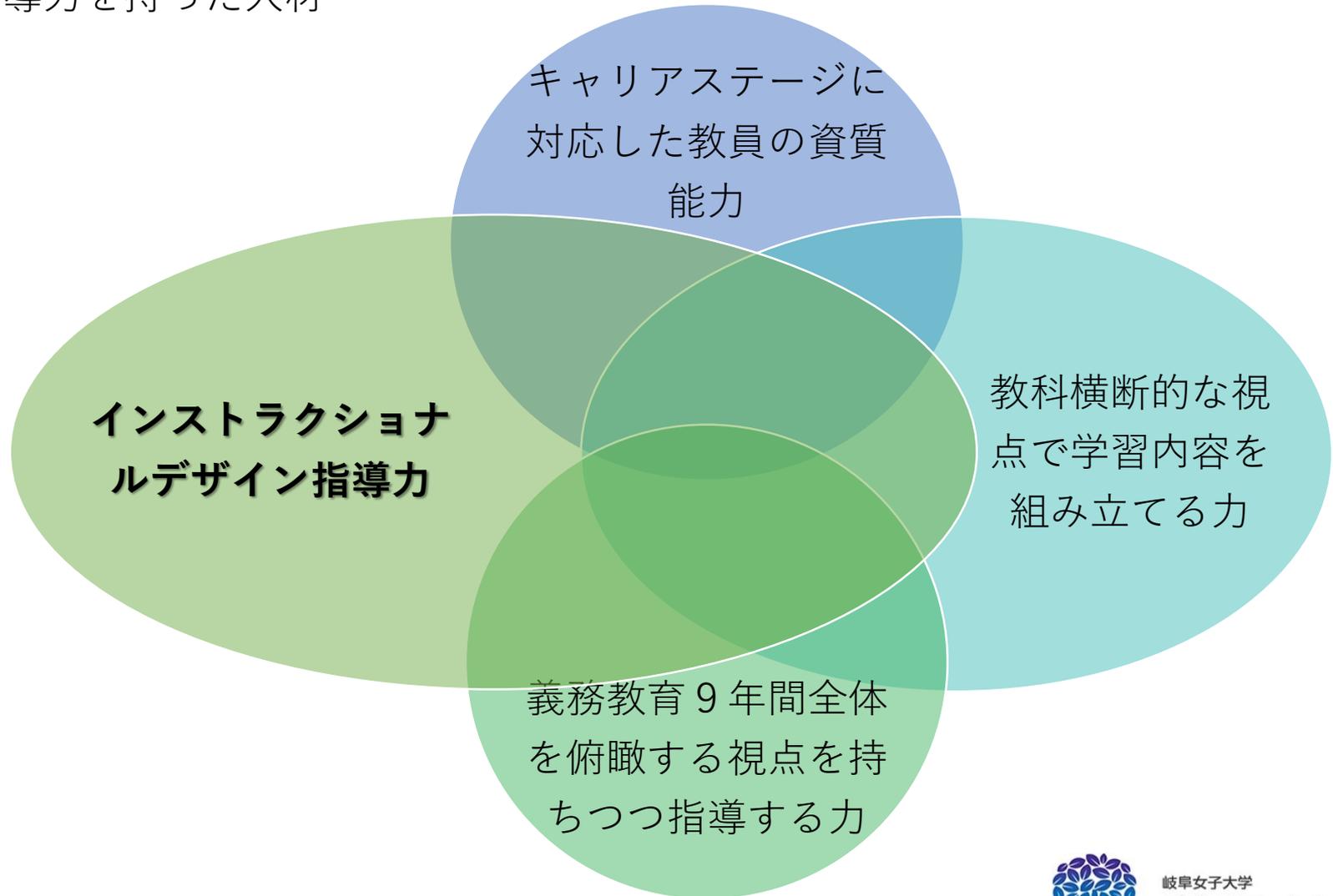


岐阜女子大学カリキュラムメソッド



□ 小中連携教育コーディネータに求められる資質能力

■ 複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた時代の変化に対応した総合的な指導力を持った人材



キャリアステージに対応した教員の資質能力（岐阜県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【中学校】における【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

学習指導	授業構想
	授業実践
	評価改善
生徒指導	生徒理解
	生徒指導
	キャリア教育
	学年・学校経営
経営・分掌	連携・協働
	危機管理
	特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応
ICTや情報・教育データの利活用	

清流の国^{ぎふ} 岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【中学校】

改訂版

～ぎふの人間像～

高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦し、家庭・地域・職場で豊かな人間関係を築き、地域社会の一員として考え行動できる「地域社会人」

～岐阜県が求める教師像～

- ◎ 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師（学び続ける向上心）
- ◎ 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師（高い倫理観・使命感）
- ◎ 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師（確かな専門性）

	スタートライン	【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
授業構想		意欲的に授業実践や学級経営に取り組む、教職の基礎を固める。	学校の中核として実践を積み上げ、専門性を高め、推進力を発揮する。	活力ある学校運営を企画・調整・実践し、リーダーシップを発揮する。	学校管理や他の教員等への指導を行い、広い視野で組織的な運営を行う。
授業実践	中学校に関する学習指導要領、評価規程・評価方法を理解し、それらを踏まえた指導計画を作成することができ、	学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。	小・中学校9年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画を作成し、他の教員等に広めていくことができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画が作成され、全校体制で取り組めるよう働きかけることができる。
評価改善		教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。	教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実な基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。	授業モデルを示すなど、授業実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員等に広めていくことができる。	学校の課題を踏まえ、学習向上に向けた実践を他の教員等に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。
生徒理解		評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次の単元の指導を計画することができる。	適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。	学校の授業力向上に向けた取組の検証を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。	他の教員等に対して、授業における評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。
生徒指導	生徒と共に活動する楽しさや喜びを経験し、生徒理解の重要性について理解している。	進んで声をかけ、共に活動をすることで、生徒一人一人のよさや課題を的確につまみ的確に把握することができる。	生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解し、適切な対応した指導を行うことができる。	様々な情報に基づいて生徒一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。	継続的に生徒の行動を見届け、価値付けの指導を行ったり、生徒の抱え方について助言を行ったりすることができる。
キャリア教育	教育相談、生徒指導、キャリア教育に関する基本的な事項や指導方法等について理解している。	問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。	関係職員と共に生徒の状況について、適切な指導方法を判断し、対応することができる。	関係職員や保護者等と協力し、生徒の状況を生かして指導方法を判断し、迅速に対応することができる。	生徒に対する指導を組織的・計画的に実践できるような体制を整え、同時に、問題の未然防止の取組を実践することができる。
学年・学校経営	教員の職務内容や学校組織等について理解している。	担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。	学校全体を発達し、課題を改善しながら校務を行うことができる。	校務全般に關して課題を深め、組織を生かしながら校務を推進することができる。	学校の教育目標達成に向けて、校内組織間の連絡・調整を行うことができる。
連携・協働	危険管理の重要性や組織マネジメントに関する基本的な事項等について理解している。	他の教員等のよさに学び、相談・協力することができることにも、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。	組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。	他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら、対応することができる。	広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。
危機管理		生徒の安全や個人情報等の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に対応することができる。	事故等の発生時や未然防止について、備前に対応して迅速に行動することができる。	関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。	学校を取り巻く環境について家庭・地域・関係機関との協力体制を整え、同時に、適切に対応することができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応	特別な配慮や支援を必要とする生徒について、合理的配慮の旨や組織的な対応の必要性を理解している。	一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの実践づくりに生かすことができる。	多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実践のために工夫・改善を行うことができる。	全校的な支援の充実に向け、職員との連携による指導の体制を整え、組織的・継続的な支援のために主体的に働きかけることができる。	幼児児童生徒への一貫した教育支援を担い、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。
ICTや情報・教育データの利活用	ICTを活用した学習指導や校務の推進及び生徒に情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。	授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。	ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。	自らのICT活用指導力を高め、これまでの経験を活かした活用方法を提案したり、実践し続けることができる。	学校のICTや情報・教育データの活用を的確に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
<ul style="list-style-type: none"> 自分の得意な内容、領域を見付けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が得意な内容、領域を磨いている。 他の人が持っているものよさに気付く、取り入れてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知恵や経験が他の人に有用であることに気付く。 異なる見方や価値観を受け入れ、面白いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 若手や同僚に共感する。 自分の知恵や経験を活かす場がある。

教員が成長し続けるために大切な姿

□ 小中連携教育コーディネータに求められる資質能力（1）

岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 【中学校・資質向上期】

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【中学校】における【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに求められる資質能力
学習指導	授業構想	(1)学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 (2)小・中学校9年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。
	授業実践	(1)教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 (2)教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。
	評価改善	(1)評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。 (2)適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。
生徒指導	生徒理解	(1)進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 (2)生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。
	生徒指導	(1)問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 (2)関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。
	キャリア教育	(1)生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 (2)生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
経営・分掌	学年・学校経営	(1)担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。 (2)学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行うことができる。
	連携・協働	(1)他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。 (2)組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。
	危機管理	(1)生徒の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。 (2)事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応		(1)一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 (2)多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。
ICTや情報・教育データの利活用		(1)授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 (2)ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力（2）

インストラクショナルデザイン指導力

※ インストラクショナルデザイン指導力：学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。

※ インストラクショナルデザインとは、「何を（What）できるようにするのか？」を明確にしたうえで、「どうやって（How）できるようにする

のか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに必要な資質・能力
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	研修成果の評価	
	ワークショップ	
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

小中連携教育コーディネータの資質・能力の構造化

資質・能力カテゴリー		小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
学習指導	授業構想 授業実践 評価改善	<ul style="list-style-type: none"> ①学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 ②小・中学校9年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。 ③教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 ④教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。 ⑤評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。 ⑥適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。
生徒指導	生徒理解 生徒指導 キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ①進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 ②生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。 ③問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 ④関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。 ⑤生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 ⑥生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
経営分掌	学年・学校経営 連携・協働 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ①担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。 ②学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行うことができる。 ③他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。 ④組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。 ⑤生徒の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。 ⑥事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。
特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		<ul style="list-style-type: none"> ①一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 ②多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。
ICTや情報・教育データの利活用		<ul style="list-style-type: none"> ①授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 ②ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン 研修成果の評価 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> (1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に関与する自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学習がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	教育リソース	<ul style="list-style-type: none"> (6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

新たなキャリアである小中連携教育コーディネータの養成カリキュラムの開発

目的

義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより、小中連携教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ること」を目的としている。

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するもの。

【履修証明プログラム】

本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するもの。

コース名	小中連携教育コーディネータ養成コース (第1期～第3期(100名定員/期))
趣旨・内容	本課程は、「義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより、小中連携教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ること」を目的としている。
対象者	次の(1)～(3)に該当する方とします。 (1) 中学校教諭普通免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、当該学校における教諭等として在職年数が3年以上の方注1)。 ((1) に該当する方については、コース修了により小学校2種免許状を申請可能) (2) 小学校や中学校教諭免許状所持者でスキルアップを目指す方。 (3) 小学校や中学校にお勤めで、小中連携教育に興味がある方。
総時間数	9科目 121時間(履修証明プログラムは60時間以上)
コース修了条件	各講習における試験またはレポートによる最終試験を全て合格すること。
出願書類	1. 履修証明プログラム受講申請書 2. 写真 2枚

小中連携教育コーディネータの開設科目

科目区分	科目名	授業形態	時間数	講義内容(案)
大学独自科目	小中連携教育コーディネータ概論	ハイブリッド型	15	義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につける。
各教科の指導法に関する科目 (5科目10単位) (所有する全ての中学校教諭免許相当する教科を除く)	初等教科教育法(国語)(書写を含む)	ハイブリッド型	15	学習指導要領 国語科の目標、指導内容・方法を理解する。国語科の持つ特質を踏まえ、言語力の育成を重視しながら、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行い模擬授業を行って、目標到達の授業ができる力を身につける。
	初等教科教育法(算数)	ハイブリッド型	15	小学校算数科教育の目標と指導内容を理解する。そして、基本的な学習指導案の形式を理解し、算数科の目標達成のための教材研究の仕方や指導方法を理解する。また、評価についても理解する。算数の授業を仕組む基本的力を身につける。
	初等教科教育法(体育)	ハイブリッド型	15	学習指導要領をもとに、体育の意義、目標、内容について理解し、指導案作成に必要な事項を理解し、作成する。また、作成した指導案をもとに模擬授業を行い、振り返りを行う。
	初等教科教育法(音楽)	ハイブリッド型	15	①表現及び鑑賞の活動を通して音楽の諸要素の味わいを感じ取ることが音楽科学習で最重要事項であることを知的感覚的に理解する。 ②音楽指導の各分野について、指導事項とその系統を理解するとともに、活動を通して確実に力が身に付けられる指導の流れを工夫・創造する。 ③楽曲分析の力を付け、曲のもつよさや味わいを音楽の諸要素の面から明らかにする。
	初等教科教育法(理科)	ハイブリッド型	15	小学校学習指導要領(理科)をもとに、理科授業の理論と方法を学びそれら基礎的事項を理解することができる。
	初等教科教育法(外国語)	ハイブリッド型	15	小学校を中心とした新学習指導要領の理念を理解し、その理念に基づいた指導と評価の実践力を養成する。
生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 (1単位)	生徒指導論(進路指導を含む)	ハイブリッド型	8	生徒指導論は、一人一人の児童生徒の望ましい人格の成長・発達を図るための指導や援助に必要な知識と技術の習得を目的とする。
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 (1単位)	教育相談Ⅱ(カウンセリングを含む)	ハイブリッド型	8	カウンセリング理論や技法を含めて、学校における教育相談の基本的な考え方や態度を習得する。また学校における児童生徒の諸問題について心理的視点からの理解と対応や学校教育相談体制の中での連携の在り方について理解する。



小中連携教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン(例)

タキシノミーテーブル (教育目標の分類体系：タキシノミー)

(〇〇する力がある) 内容 事実、概念、 手続き、メタ認知	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
	再認、再生	解釈、例示、分類 推論、比較、説明	実行、遂行	比較、組織、結果と原因	チェック、判断	生み出す、計画できる、汎化
	書く、暗唱する 組み合わせる 辞書・ネットで調べ る	説明する 他に例える 要約する	道具や方法を選ぶ 実験や実演で試す プレゼンする	他の結果と比較する 基準に照らして考察する 図やグラフを組み合わせる	良否を判断する 優先順位をつける 採点・審査する	解決案を考案する 解決策の実行を管理する 解決システムを設計する
第1講 小中連携教育に関する社会的背景	・小中連携教育に関する社会的な課題について説明できる。	・小学校教員に求められる専門性について具体例を示して説明できる。	・それぞれ地域の教員のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標を説明しなさい。	・小学校と中学校の円滑な接続の在り方について説明できる。		
第2講 小中連携教育コーディネータ	・小中連携教育コーディネータについて説明できる。	・小中連携教育コーディネータの活動について具体的に説明できる。		・ペダゴジー (pedagogy) とアンドラゴジー (andragogy) の違いについて具体例を挙げて説明しなさい。		
第3講 ハイブリッド型授業のデザイン	・ハイブリッド型授業について具体的に説明できる。	・ハイブリッド型授業の課題について具体例を挙げて説明しなさい。 ・遠隔教育の必要性について具体例を挙げて説明しなさい。				・ハイブリッド型授業について授業設計ができる。 ・ハイブリッド型授業を具体的に企画しなさい。 ・遠隔協働学習を企画し、実際に実践してみなさい
第4講 「教えないで学べる」という新たな学び	・J・B・キャロルの学校学習の時間モデルについて説明しなさい。	・「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。 ・「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しなさい。				・「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。 ・「教えないで学べる」研修を実現するための手立てを考えなさい。

新たな教師の学びの姿の実現のためのカリキュラムデザイン

子どもたちの学び(授業観・学習観)とともに教師自身の学び(研修観)を転換し、「新たな教師の学びの姿」(個別最適な学び・協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」)を実現

主体的

- ・ 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザイン
- ・ 教えないで学べる学習環境の設計

データサイエンスやこれまでの教育実践の「経験知」の可視化等、教師の経験知と科学的視点のベストミックスした新たな学習指導について考える。

学習者と講師や学習者間のコミュニケーションの場の設定

養成段階を含めた教職生活を通じた学びにおける、「理論と実践の往還」の実現

対話的

タキノミーテーブル
(教育目標の分類体)

6つの認知過程次元との関連を捉えることで、「応用する・分析する・評価する・創造する」といった高次の認知・学習スキルを獲得する学習活動や、それを意図した学習目標の設定により深い学びの評価の可視化

深い学び

